



発行者 祐愛会織田病院企画室
責任者 織田 正道

ゆうあい報 おだぴたる

《院内報》

新年号



二〇〇八年法人方針

新たな時代に向けて

特定医療法人祐愛会理事長 織田正道

本格的な医療制度改革がスタートする二〇〇八年を迎えました。この四月には、診療報酬改定と共に、後期高齢者医療制度、医療費適正化計画、地域ケア整備構想などの施策が一斉に始動します。これ等は、生活習慣病予防、医療機能の分化と連携、在宅医療を押し進める上で各々が連動しており、医療だけではなく介護分野にも及ぶ大改革が一気に進められて行くものと思われま。

この時代の大きな変化に備え、これまで私たちは①教育・育成、②公益化・情報公開、③急性期の選択、④地域連携を四大柱として、多くの取り組みを行って来ました。その結果、有能な人材の確保、健全な経営、地域の信用、地域ネットワーク構築と、激動の時代を乗り越えるだけの総合力のある組織ができました。

また、私たちは非営利性の徹底、透明性の高い運営など一定の要件が認められ、公益性のある「特定医療法人」の認可を受けていますが、この四月には更に『社会医療法人』への移行を予定しています。『社会医療法人』は昨年の医療法改正により創設され、この四月より認定が始まる公益法人です。この移行により、社会の公器として官公立に変わり得る存在になれるものと思います。

今後、地域に必要とされる病院として、また施設としてあり続けるために、掲げた方針を具現化し、地域の期待に応えて行きたいと思えます。

それでは二〇〇八年の法人の基本方針と、保健・医療・福祉(介護)三分野のビジョンを示します。皆で力を合わせ、夢

と希望に満ちた素晴らしい年にして行きましょう。

法人方針

「地域の人々が安心して健やかな生活が送れるように、保健・医療・福祉がシームレスにつながる地域包括サービスの構築を目指します！」

保健分野

「生活習慣病の予防・改善に本格的に取り組む、地域の人々の健康を守ります」

①四月にスタートする特定健診・特定保健指導に、地域の医療機関とも連携し、積極的に取り組めます

②健康づくり事業にも力を入れ、ウォーキング教室などのヘルスケア事業にもチャレンジします

③保健指導の担い手であるスタッフ(保健師、管理栄養士)の人材確保・育成に努めます

医療分野

「急性期病院としての質の向上と効率化を目指すと共に、地域連携の強化に努めます」

①連携センターを中核とした地域ネットワークの構築を進めます

・VPNを利用した医療連携の強化

・紹介、救急患者受け入れ体制の強化

・後方連携の強化

・在宅支援体制強化

②地域保健医療計画(四疾病五事業)の中で、脳卒中、心筋梗塞、救急医療における急性期機能の充実に努め、地域におけるポジションを確立します

③医療内容充実のため、常勤医師の招聘に努めます

④看護体制七二一を維持し、働きやすい職場環境の整備に努めます

⑤安全管理に基づいた質の高い医療を提供するために、医療安全、感染予防、セカンドオピニオン、インフォームドコンセントの徹底などセイフティマネジメントの更なる向上に努めます

⑥病院機能評価において中項目評価オール四以上を目指します

福祉(介護)分野

「脱施設化に向けて、地域と連携した在宅支援システムの確立を図ると共に、ケア理念の浸透によるサービス向上に努めます」

①円滑な在宅復帰、在宅支援を行うためにショートステイや高齢者専用賃貸住宅の開設に向けたプロジェクトチームを結成し、早期に事業計画を策定します

②個別性を重視した通所サービスの充実に努めると共に、介護予防にも力を入れて行きます

③地域における在宅ケアの理解浸透のため、訪問系サービスは積極的な地域活動を行います

④介護スタッフの能力向上に向けて、豪州のハモンドケアグループと提携し「認知症ケア」の教育研修に力を注いで行きます

⑤施設内感染予防や転倒転落防止を中心としたセイフティマネジメントの更なる向上に努めます

以上、各分野のビジョンの解説を行いました。

ゆうあいヴィレッジの取り組みと今後の展望

ケアコートゆうあい施設長 千々岩親幸

現在、ゆうあいヴィレッジには、老人保健施設ケアコートゆうあいの他、デイケア一ヶ所、一般デイサービス二ヶ所、認知症デイサービス三ヶ所、およびグループホームが二ヶ所あります。

老健入所については入所者の平均要介護度が四・〇となり、平均在所日数は四〇〇日を越えました。入所者のほとんどが認知症であり、経管栄養の方も六名おられます。高齢者の医療・介護施設の中で、老人保健施設は、当初在宅復帰支援という明確な役割があったわけですが、二〇一二年に介護療養病床の廃止が決定した後、老健の療養病床化は一気に加速しました。厚生労働省は、将来的には老人保健施設や特別養護老人ホームといった区別をなくし介護保険施設として一元化を目指しているといわれていますが、昨年は新型老健の話が出たりと、今後も介護保険施設は医療制度の改革とともに大きく変化していくことが予想されます。我々もいち早く状況の変化に対応しよりよい施設を目指していかなければならないと考えております。

通所事業は一昨年新たなデイサービスをスタートしました。利用者数もゆうあいヴィレッジ職員の努力のおかげで徐々に増えてきました。今後もよりよいサービスの向上に努めより多くの方に利用していただける通所サービスにするつもりです。現在ほとんどの認知症高齢者の通所事業に力を入れており、今年も認知症デイサービスをもう一ヶ所開設する予定です。鹿島市の認知症高齢者数は約八〇〇名と推定されますので、まだまだ多くのニーズがあります。認知症についての啓蒙活動を行いながら、今後もさらに認知症の通所事業を展開していくつもりです。これか

らはさらに医療の在宅化や介護・福祉の脱施設化が続いていきます。通所事業は、医療の在宅へのシフトが大きく関係していますので、ケアマネージャーや訪問看護・訪問介護スタッフと密接に連携を取りながら利用者の安心できる在宅生活の援助、ご家族の介護負担の軽減に役立てるようなサービスの充実を計っていきます。

介護予防については、ケアコートゆうあいにパワーリハビリのマシンを設置しており、多くの方々にご利用いただき介護予防に大いに役立っています。今年は新たに、まだ介護保険を利用されていない特定高齢者の方を対象にパワーリハビリマシンによる身体機能向上や口腔ケア指導を行う予定です。昨年は脳健康教室を行いました。今年も引き続き介護保険以外の介護予防事業も続けていくつもりです。

以上のようにゆうあいヴィレッジの事業活動は毎年増え続けております。ただひとつ、事業展開に際し頭が痛い問題があります。それは人材の問題です。介護業界はもとものと離職者が多い職業といわれていますが、社会状況の変化により一昨年頃から介護の仕事に就く人が激減しております。介護事業者の中にはやむを得ず事業の縮小や撤退を余儀なくされた所も出てきています。我々の法人としてもショートステイの施設や高齢者専用住宅の建設計画はありますが、建物だけ建てても中で働く優秀な人材が集まらないことには運営できません。国も介護業界の待遇改善に施策を立て始めているようですが、状況はすぐには好転しそうにありません。しかし何とか知恵をしぼり、優秀な人材を集め、地域の人々のための福祉事業を展開していきたいと考えております。

また逢う日まで

耳鼻咽喉科医師 鷺崎 政治



あけましておめでとうございます。新年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は九年六ヶ月お世話になった織田病院を離れ、開業の準備を行っております。慣れない業者との折衝や面接など今までとまったく違う感覚で一日が経過しております。これまでのように患者様や医療従事者との会話が少なく、略語やカタカナがちゃんぷんかんぷんです。まさしく一からのスタートといったところです。縁あって鹿島に赴任し、鹿島で友を増やし、鹿島で患者様や先輩に教えていただき、鹿島で開業することとなりました。五月に「わしざき耳鼻咽喉科」を開院する予定です。これからは祐愛会の職員ではありませんが、ご近所ですので会うこともあると思います。その際は気軽に声をかけてください。また会う日まで。

内科医師 吉岡 経明



二〇〇二年からの一年間、および二〇〇四年からの三年四ヶ月、計四年四ヶ月の間、ここ織田病院に勤めさせて頂きました。徐々に受け持つ患者数も増え、外来では長くお待たせすることになり、患者様には大変ご迷惑をおかけしました(一五時過ぎまでかかることもしばしばでした)。それでも多くの方々(約二五〇人!)に最後まで通院していただき、主治医としては幸せでした。一旦大学病院に戻りますが、今後も頼りにされる医師でありたいと思います。最後に、

遅くまで外来を手伝ってくれた看護師・事務の方々、病棟でのコメディカル、薬剤師、給食の方々、そして織田病院の先生方、長い間大変お世話になりました。感謝で一杯です。

内科医師 石松 隆造



みなさん、今まで本当にありがとうございました。私は、平成一九年十一月三〇日をもって、織田病院を退職いたします。私は佐賀大学総合診療部の医師ですが、今回地元北九州に戻り一年間、済生会八幡総合病院を経て、父の医院を継承しようと考えております。思えば、三年半と他の若手の先生に比べれば、長く仕事をさせて頂いていただきました。皆さんの御厚意で楽しく仕事をさせて頂いたのだと思っております。

これからも、織田病院は理事長を船長として、医療界の荒波を先頭を切って突き進んでくれることでしょう。

最後になりましたが、この皆さん、先生方、事務、連携センターの方、等々書ききれませんが、誠にお世話になりました。さようなら。

内科医師 大串 昭彦



昨年七月に赴任して以来本当にお世話になりました。最初赴任したときは研修医上りの状態で、まだまだ一人の医師として日々の診療を任されることに非常にストレスを感じていました。が、西山院長、坂田先生始め諸先生方の御指導、看護師・コメディカルスタッフの支えを頂き、なんとかやっていくことができました。本当に感謝しています。また、医局の先生方とも親しくして頂き、鹿島の日常を楽しく過ごすことができました。一〇月から佐賀大学に戻り新たな生活がスタートしますが、ここで学んだことを活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

新任 Dr 紹介

20

内科医師 朝長 元輔
出身大学 佐賀医科大学
出身医局 佐賀大学医学部総合診療部



二年半ぶりに帰ってまいりました。大学では、毎日外来後にカンファレンスがあり、また各専門科の医師にもすぐに相談できる環境で仕事ができ、外来診療についてはかなり勉強になりました。この経験を織田病院でも生かしたいと思います。

連日外来は多くの患者さんであふれ、また当直二人体制、救急看護師の当番制、病診連携、DRGの導入、病院機能評価など、医師のみならずスタッフ・職員みなさんが大変な状況にあると思います。お互い協力してがんばりましょう。よろしくお願いいたします。

内科医師 江口 仁
出身大学 佐賀大学医学部
出身医局 佐賀大学医学部総合診療部



十月より内科に勤務となりました。市中病院での勤務は初めてとなります。織田病院は市中病院よりも高度の医療を求められ、その面でも学ぶことが多いですが、一方福

祉、介護、在宅診療などに関しても非常に勉強になると考えています。プロフィールを少し紹介しますと、出身は佐賀市内で、趣味はラグビー、卓球、スノボ、テニス、スキューバー、旅行から、読書、マンガ、映画、写真、ゲームなどまで楽しめます。好きな言葉は「謙虚」と「適当」。収縮期血圧が気になる今日この頃です。人見知りし易い私ですが、皆さんの輪に早く溶け込めるように努力していきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。

耳鼻咽喉科医師 清原 英之
出身大学 九州大学医学部
出身医局 九州大学医学部耳鼻咽喉科



一月より耳鼻咽喉科に勤務となりました。その前は約二年半大学病院にいたので、市中病院は久々の勤務となります。これまでは嚥下機能の評価を中心に勉強してきたので、少しでも貢献できるようにとは思っています。それ以上に外来、手術などでご迷惑ばかりおかけしているのが、まずは通常業務をこなせるようにがんばろうと思います。

簡単に自己紹介をさせていただきますが、昭和五二年一月生まれ、出身は福岡市です。スポーツはバスケットボールが好きでした。よく毒舌をはくとまわりに言われるので、こちらではおとなしく生きていこうと思っています。

今回医局からの初めての派遣ということで、知り合いもおらず、さらに人並み以上に人見知りしやすいので、仲良くなれるまでもう少し時間がかかると思っています。早く織田病院の一員になれるよう努力していきたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

全日本病院協会第三一回ハワイ研修旅行に参加して

ケアコートゆうあい事務総務部主任 北川 玲子

長い旅路を終え、到着したホテルの窓のカーテンを開けた瞬間、あまりの美しさに言葉をなくしてしまいました。そこからは、青く澄み切った空と海がどこまでも続き、サーフィンをしている人々や、ビーチで水着をきた沢山の人がくつろぐ光景が目に見え、飛び込んできました。近くには豪華なホテルがいくつも立ち並び、ガイドブックで見るとよりはるかに明るく美しい風景がとても感動的でした。

さて、今回のハワイ研修旅行は一〇月二九日より十一月三日までの期間で、全国から八三名の参加があり、祐愛会より八名参加させていただきました。ホノルル空港到着後すぐに待ち構えていたバスにて、ヌアス・パリ(風の吹き抜ける丘)をはじめ有名観光スポットへ案内していただきました。夜はツアークンダクターお勧めの焼肉店へ向かい、実に楽しい夕食となりました。二日目は午前中に「アメリカの看護とヘルスケアについて」を受講し、午後からは「Duke's Digest」(透析センター)見学とクワキニホームの施設見学を行い、夜は全日病主催の懇親会に出席させていただきました。会場は海のすぐ傍で、沢山のヨットが波に揺られて浮かんでおり、ライトアップされたその光景はとてもロマンティックでした。懇親会では豪華なディナーが次々に並び、地元の美しい女性のフラダンスのご披露で気分はまさにハワイアンでした。翌日の朝食の買出しに近くのショッピングに出向き、



サンドイッチを買ったのですが、翌朝開けてみてあまりの大きさにびっくりしてしまいました。



三・四日目は自由行動となり、オアフ島巡りバスツアーや、沈みゆく夕日を見ながらのディナークルーズツアーに参加しました。珍しい潮を吹く海岸、香り豊かなコーヒー農園の産直所、ハンサムな社長さん経営の自然石製の工場見学、有名な日立の樹の見学、ドール社のパイナップルアイスを食べたり等々、盛り沢山の観光でとても楽しかったです。移動中は小雨が降ったり晴れたり忙しい天気でしたが、その都度ハワイ名物の「ダブル」の虹が何度も現れました。この夜は、幸運にも「ハロウィン」が見学できるとの事で外出しました。道は奇抜な衣装をしたあふれるほどの陽気な人々でごった返し、踊ったり歌ったりととても歩けないくらいの大騒ぎでしたが実に貴重な体験でした。迷子にならずに無事ホテルに帰れたのが不思議でした。皆でムームードレスを着て、周りの人から笑われながらもワイキキビーチで記念撮影をしたのも今ではとてもいい思い出となりました。

今回の研修旅行中は何度となくアクションデント等ありましたが、どれをとっても楽しく面白いことばかりでした。また、客室乗務員の素敵な笑顔や、ホテルスタッフの接遇のよさに関心させられ、是非参考にしたいと思いました。心地よいハワイ独特の爽やかな風に吹かれ、心身ともリフレッシュでき、とても楽しい思い出いっぱいです。関係者の皆様に心より感謝をいたします。

成人 おめでとう



○ゆうあいヴィレッジ
西野辰也さん

①成人式を無事に終え、社会人として大人の仲間入りしたんだなあと感じています。
②今は自分が出来る事を一つ一つ精一杯取り組むことです。
③笑顔と体力？まだまだご迷惑かけるとは思います。ご指導よろしくお願ひ致します。



○ゆうあいヴィレッジ
植松葵さん

①あまり実感はありませんが、成人を迎えたので一人の大人として自覚を持つて行動していきたいです。
②友達とどこか遠くに遊びに行きたいです。
③これから笑顔で一生懸命頑張っていきたいと思ひますのでどうぞよろしくお願ひ致します。



○ゆうあいヴィレッジ
永石佑香さん

①実感はないですが、成人を迎えられて嬉しく思っています。これからは勉強や仕事により一層取り組んで行こうと思ひます。
②まず、資格を沢山とりたいたいです。そして時間がたったら旅行に行ったり、一人暮らしもしてみたいです。
③とにかく健康体なので元気に頑張ります。いろいろ教えて下さい。



○織田病院
川下勝利さん

①成人を迎えた感想は？
②成人してやってみたこと？
③自己啓発

①成人を迎えたので一人の社会人として自覚を持つて行動しなければいけないと思ひます。②今は資格試験に向けて勉強を頑張る、若い時に後悔しないよう積極的にいろんなことにチャレンジしていきたいと思ひます。
③これからも笑顔で仕事に励みたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。



○織田病院
諸岡侑子さん

①1つ1つの行動に責任を持ち、大人として恥ずかしい様な人間になりたいと思ひます。
②今は資格試験などで大変なので、合格できたら友達と遊びに行ったり、いろいろチャレンジしたいです。
③春から看護師として働ける様、精一杯頑張りますのでみなさんご指導よろしくお願ひ致します。



○織田病院
釘尾遥さん

①やっと二十歳になったんだと実感しました。無事成人式を迎えられてよかったです。
②若い時しかできないことをたくさん経験したいですね。旅行とか...
③大人としての自覚を持ち、何事も積極的に取り組むたいと思ひますので、ご指導よろしくお願ひ致します。



○ゆうあいヴィレッジ
前田祝幸さん

①自分も大人の仲間入りをしたんだと感じました。
②家族で旅行に行けたらいいなと思ひます。
③これからも笑顔で仕事に励みたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。



○織田病院
樋口裕紀さん

①成人した姿を両親に見せることができてよかったです。
②今まで経験していないことや、まだ自分が知らないことにチャレンジしていきたいと思ひます。
③これからも、いろんな面で成長していきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。



○織田病院
隈部綾香さん

①実感はないですが、大人として責任を持つて行動していきたいです。
②友達といろんな所旅行したいです。
③何事も一生懸命努力して頑張りますので、ご指導よろしくお願ひ致します。



○織田病院
中村一幸さん

①まだ、実感はないけど、やっと大人の仲間入りができたんだなあと感じました。
②まず、お金をため、旅行に行きたい。
③何事にも積極的にしていきたい。

画像情報システム導入

放射線部主任 宮崎公志



近年、医療分野では電子化が進み、当院でもオーダーリングシステム、薬剤管理システム、検査システムと導入されてきました。今回、放射線部門でも画像情報システムを導入し、平成一九年一〇月より稼働を始めています。導入したシステムはCARSTREAM (旧MODAS) の装置で画像を保存、配信するシステム (PACS)、放射線部の情報を管理するシステム (RIS)、およびレポートシステムです。DICOM規格 (DICOMとは、医療で使用するさまざまな装置の画像形式や通信方法などの規格の違いを共通化するために定められた規格) で画像を出力できる装置である一般撮影 (CR)、CT、MRI、MNG (検診) の四つが対象です。DICOM規格で出力できない透視検査や血管造影検査は対象外です。

画像情報システムを導入することの最大のメリットは、これまでフィルムで保存していた画像を画像サーバーに電子保存し、ネットワークで各端末 (院内LANに接続されているPC) に配信できることです。また、放射線科医の読影レポートもレポートシステムで入力することにより画像と共に各端末に配信できます。これにより病棟や各診察室、またカンファレンスなど必要ときフィルムを取り寄せることなく、各端末で画像およびレポートを参照することが可能と



■読影室

なりました。現在はフィルムとこのシステムを併用していますが今後はオーダーリングシステム、医事会計システムと連携するとともに、各診察室、病棟などでモニタの整備を進めていき数年後には完全フィルムレスによる運用予定です。フィルムレスの利点は、①撮影した画像をほぼリアルタイムで見ることが出来る (待ち時間短縮)、②フィルムを探索なくよい (マンパワーの軽減)、③医事会計が早くなる (待ち時間短縮)、④フィルムコスト削減、⑤フィルム保管場所が不要、などです。しかしフィルムレスでは、画像情報システムがトラブルを起こすと画像やレポートが一切見れなくなるといったデメリットも考えられますので、バックアップ等を強化しシステムの構築を進めていく必要があります。

また、この画像情報システム導入のもう一つの目的は、地域連携強化のため地域ネットワークシステムを構築するためです。これは、当院で撮影した画像、血液検査データや投薬などの情報を地域医療機関にインターネット回線を使用するVZにより提供するシステムです。VZ回線を利用することで院内同様に画像および読影レポートを地域医療機関 (専用PC) で見ることが出来ます。検査終了後すぐに地域医療機関へ画像および読影レポートが配信されますので、患者様がフィルムを持ち運ぶ必要がなくなり、また検査後の待ち時間も短縮され、患者様の負担軽減も期待されます。

今後はDICOM出力でない装置の更新や超音波検査などの検査画像を配信できるようにすること、さらなる院内業務の効率化や地域連携強化へ繋がるものと期待されます。

医療安全委員会便り

『事故ゼロへの挑戦』

リスクマネージャー 原崎真由美

平成一九年は、皆さんの安全対策への取り組みで、大きな事故もなく一年を終えることができました。新しい年をスタートするにあたり、当院の安全対策の考え方・取り組みについて紹介したいと思います。

当院の安全対策の取り組みは、平成一二年安全対策委員会を中心に安全管理指針に則って活動を開始しました。「医療事故の限らないゼロを目指す。仮に医療事故が発生した場合マニュアルなどにより適切な対応処理をする。」と指針に明記。この方針を基に、インシデント・アクシデント報告の提出、対策の立案(マニュアルの作成・業務の基準化など)教育研修などを行ってきました。また、転倒・転落のリスク管理や医療機器の管理、事故発生時の対応方法なども整備(安全対策マニュアル)してきました。

これまで、リスクを0にすることはできないが、事故をゼロにすることはできると考え取り組みを行ってきました。その中から平成一三年に看護部で作成された『事故ゼロへの挑戦』を紹介いたします。これは委員会が活動を開始した翌年に作成されました。私たちひとりひとりが、専門職としての自覚と責任をもって業務に当たることと事故をなくそうという取り組みです。現

事故ゼロへの挑戦

私の心得 5カ条

1. 事故ゼロを目標としてプライドをもって仕事をします。
2. 私がやった仕事には、私が責任をもちます。
3. 事故ゼロのルールを守って、確信をもちます。
→ 声に出して、フルネームで確認します。
→ ダブルチェックを繰り返します。
4. 私は、いつでも叫んで仕事をします。
5. 私はリスクを予測して、被害を減らします。

自己チェック表

ミス要因として多い4つのパターンを挙げています。

① 知識がない ② 集中力がない

③ 自信がない ④ 緊張感がない



平成13年4月2日 医療安全委員会 原崎真由美

在三階病棟では、部署朝礼で私の心得五カ条を声に出して確認してから業務に入っています。皆さんも業務に入る前に私の心得五カ条を心に止めて一日をスタートさせ、「今日はどうかたかな」と一日を振り返ってみてください。安全対策は、組織的に行うと同時に個人が実行しなければ実現しません。『事故ゼロへの挑戦』を根付かせ、安全文化のある組織風土作りに取り組みたいと考えています。

「安全・安心・納得の医療」を提供できることと今年もがんばりましょう。よろしくお願ひします。

外来化学療法室ができました

外来看護師長 前川ゆみ子

当院での外来化学療法は、外科を中心に月平均三三件(二〇〇七)行われています。化学療法に要する時間は、三〇分〜六時間と長時間を要しています。これまでは、一般の患者様と同様に点滴室で治療を行っていました。そのため、患者様のプライバシー保護、苦痛や抵抗力低下への対処などさまざまな問題がありました。そこで今回、患者様が安心して、安全に治療ができるように化学療法室を新設しました。化学療法室は個室となっており、患者様のプライバシーが確保され、また長時間の治療の苦痛を和らげることができるよう電動リクライニングシートやテレビ、DVDが設置されています。患者様の声として、「テレビを観て時間を忘れていたよ」とか「ゆったりとした気持ちで治療を受けられる」などの声が聞かれています。今後とも、患者様の声を聞きながらより良い外来化学療法室にしていきたいと考えております。



四季雅感

名誉理事長 織田 五二七

うれしい時、素直にうれしいといえる時、そこにはきつと笑顔がある。美しい花を素直に美しいと感ずる時、そこにはいつも笑顔がある。素直に体一杯元気が、やる気があると、人生の楽しい笑いがある。いつ、どこでも、誰でも作れる、いわば生活のシンボルである笑顔。みんなと一緒に、笑顔の一日一日が、この一年になりますように。

悲しければ悲しいほど笑顔を作ること。涙にぬれた笑顔はけなげで美しい。わかさは湖の涙かもしれない。

長谷川秋子

そして、毎日、毎日楽しく、うれしいものになりたい。それは、人を喜ばせることです。本当に人を喜ばせるには、自分自身が喜んでいなければならぬ。それには、一日を立派に生きたと言う満足感が大切。その積み重ねが、いい一生になり、人を喜ばせ、存在感のある生涯になるのです。

いざゆかん 雪見にうろぶところまで

芭蕉

しづり雪 野佛の合掌(て) までに 止まりけり

浙吾

ああこれが ついのすみ家か 雪五尺

一茶



学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(平成19年)

【学会(研究会)発表】

◎医学関係

- ・第14回うれしの脳卒中カンファレンス
(4月12日 嬉野医療センター大ホール)
西山雅則、「脳卒中の地域連携(急性期から慢性期へのスムーズな移行)～脳卒中医療連携:当院での試み」
- ・第19回総合診療ケースカンファレンス(5月16日 マリトピア)
大串昭彦、「めまい・ふらつきの一例」
- ・第26回ヨーロッパアレルギー臨床免疫学会
(6月9日-13日 スウェーデン イエテボリ)
XXVI Congress of the European Academy of Allergy and Clinical Immunology, EAACI 2007 Göteborg, SWEDEN 09-13, June 2007, Sawatsubashi M, Washizaki M, Kakizoe A, Oda M: Improved strategies of the pre-seasonal treatment based on Japanese Practical Guideline for Japanese cedar pollinosis. - Antihistamines and antileukotriene therapies-Allergy 2007; 62 (Suppl 83): 224-225.
- ・第25回日本老年学会総会(6月22日 札幌)
鐘ヶ江寿美子、市丸徳美、千々岩親幸、Richard Fleming、小泉俊三、「日本語版 Care Planning Assessment Tool の作成と信頼性・妥当性の検討」
- ・第30回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会(8月24日 長崎県医師会館)
大串昭彦、石松隆造、吉岡経明、松延亜紀、坂田泰志、西山雅則、栗田浩明、桜木徹
「右胸腔内を移動する結節影として認められた右胸腔内結石の一例」
- ・Annual Conference International Psychogeriatric Association
(10月15日 Osaka)
Kanegae S, Ichimaru N, Nagashio T, Fleming R and Koizumi S.
「Development of the Japanese version of Care Planning Assessment Tool(J-CPAT): Reliability and Validity Studies」
- ・第14回ヘルスリサーチフォーラム(11月10日 東京)
鐘ヶ江寿美子、山崎律美、石橋カズヨ、川島隆太、小泉俊三、「認知症高齢者の学習療法評価尺度の開発」
- ・佐賀外科漢方学術講演会(11月22日 マリトピア)
森倫人、佐藤健、浦田雅子、伊山明宏
「当院におけるTJ-100ツムラ大建中湯の使用経験」
- ・第44回九州医療社会事業研究会さが大会(11月23日 佐賀大学医学部)
鐘ヶ江寿美子、「オーストラリアの認知症ケアについて(シンポジスト)」
- ・第93回日本耳鼻咽喉科学会佐賀県地方部会
(12月8日 マリトピア)
澤津橋基広、鷺崎政治、柿添亜矢、梅崎俊郎、織田正道
「鼻・副鼻腔内視鏡下手術393症例の検討」
- ・第74回耳鼻科カンファレンス(12月13日 マリトピア)
柿添亜矢、「LPRDに対する六君子湯の使用経験」
- ・県民医療アカデミーオブエ-JAPAN 第2回フォーラム
(12月22日 佐賀大学医学部)
鐘ヶ江寿美子、「杵藤地区認知症ケアネットワーク構築に向けて(実践活動報告)」

◎看護・介護・福祉・放射線科関係

- ・第6回医療マネジメント学会佐賀地方会
(2月10日 佐賀県医師会メディカルセンター)
田島まり子、久富久美子、栗山三和子、早瀬美智子、山上清香、西村美枝子、西山雅則、織田正道
「リエゾンナースによる退院支援の取り組み」
宮崎公志、田中俊介、安部伸和、坂田善和、原崎真由美、中島順子、「当院放射線科での医療安全の取り組み～SHELLモデルを用いたグループワークの開催～」
- ・第30回佐賀救急医学会(9月8日 サンメッツ鳥栖)
経塚哲也、原崎真由美、江口富士子、西村美枝子、西山雅則、織田正道、「全職員対象のBLS研修の効果」
- ・第49回全日本病院学会秋田大会
(9月23日 秋田ビューホテル・秋田アトリオ)
田島まり子、久富久美子、西村美枝子、西山雅則、織田正道
「退院支援システムの効果的運用～リエゾンナースが果たす役割～」
谷口繁樹、江口富士子、西村美枝子、西山雅則、織田正道
「退院支援システム導入による看護師の意識変化」
- ・第8回佐賀心臓リハビリテーションセミナー
(10月12日 マリトピア)
一ノ瀬英治、「新大血管リハビリテーションの施設基準を取得して」
- ・第18回全国介護老人保健施設愛知大会
(10月11、12日 名古屋国際会議場)
野中繁昇、森田孝枝、安永勝子、市丸徳美、鐘ヶ江寿美子
「ケアカンファレンスが変わる～報告型から問題討議へ～」
野中昌子、坂井温子、「地域に笑いを」

- ・第6回日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会
(11月23日 鹿児島県民交流センター)
岩永美沙子、前川ゆみ子、西村美枝子
「褥瘡管理システムの構築」
- ・永寿園 学習療法研究発表会
(11月25日 大川市ロイヤルパークホテル)
藤瀬大祐、坂井温子、光武耕治
「一般型デイサービス取り組みから始まった施設全体の変化」

【講演】

◎医学関係

- ・佐賀県耳鼻咽喉科薬剤研究会
(1月17日 佐賀市 ホテルニューオオタニ)
澤津橋基広、「スギ花粉症の薬物治療」
- ・2007Jリーグ・ドーピングコントロールコーディネーター講演会
(2月23日 鳥栖市鳥栖スタジアム)
澤津橋基広、「ドーピングコントロールについて」
- ・第299回これからの福祉と医療を実践する会
(3月16日 戸山サンライズ大研修会)
織田正道、「入院医療と地域面連携の実践報告」
- ・杵藤介護支援専門員協議会研修会(5月23日 エイブル)
鐘ヶ江寿美子、「認知症の早期診断」
- ・小児救急Q&A講演会(7月8日 佐賀市ほほえみ館)
織田洋子
- ・東海青年医会第211回例会(8月18日 名古屋観光ホテル)
織田正道、「シームレスな地域医療を目指して」
- ・一リエゾンが退院と地域をつなぐ
- ・杵藤地区地域包括支援センター業務連絡会
(保健福祉事務所 9月4日)
鐘ヶ江寿美子、「杵藤地区認知症ケアネットワークニーズ調査結果報告」「認知症スクリーニングについて」
- ・日本医業経営学コンサルタント協会主催研修会
(9月13日 福岡天神ビル)
織田正道、「入院医療と地域面連携の実践報告」
- ・小児救急Q&A講演会(9月29日 エイブル)
織田洋子
- ・鹿島機械工業KK健康講話(10月2日 鹿島機械講堂)
西山雅則、「メタボリック症候群について」
- ・白石町地域包括支援センター主催ケアマネージャー研修会
(10月24日 有明町公民館)
鐘ヶ江寿美子、「認知症の早期発見・診断について」
- ・第22回全国医療法人セミナー(10月27日 城山観光ホテル)
織田正道、「入院医療と地域面連携の実践報告」
- ・鹿島・太良・嬉野ケアネットワーク研究会(11月14日 エイブル)
鐘ヶ江寿美子
「杵藤地区認知症ケアのニーズ調査結果報告」
- ・旭が丘保育園講演(11月17日 旭が丘保育園)
薬師寺聡美、「子供の急病とケガ」
- ・よくある赤ちゃんの皮膚トラブル講演会(11月20日 エイブル)
織田洋子、「スキンケアのアドバイス」
- ・鹿島高校保健衛生講演会(11月29日 鹿島高校)
西山雅則、「メタボリック症候群とその予防対策」
- ・白石町婦人会研修会(有明町公民館 12月1日)
鐘ヶ江寿美子、「物忘れ・認知症と上手にお付き合い!」
- ～認知症の予防・早期診断および認知症の方への接し方～
- ・白石町地域包括支援センター主催ケアマネージャー研修会
(有明町公民館 12月11日)
鐘ヶ江寿美子、「認知症の治療・周辺症状について」
- ・杵藤地区認定調査員現任者研修会(有明町公民館 12月17日)
鐘ヶ江寿美子、「認知症の中核・周辺症状の評価」

◎看護・介護・福祉・リハビリ関係

- ・第299回これからの福祉と医療を実践する会
(東京戸山サンライズ 3月16日)
田島まり子、「入院医療と地域面連携の実践報告」
- ・平成18年度輸血研修会「輸血とリスクマネジメント」
(佐賀県美術館ホール 3月16日)
原崎真由美、「当院における医療安全の取り組み」
- ～輸血に関するヒヤリハット事例を通して～
- ・看護連携研修(長崎県看護協会)(ながさき看護センター 6月17日)
西村美枝子、田島まり子、「退院調整とネットワーク構築」
- ・第211回東海青年医会(名古屋観光ホテル 8月18日)
田島まり子、「地域面連携の実践報告」

学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(平成19年)

- ・医療経営コンサルタント継続研修(福岡天神ビル 9月13日)
田島まり子、「入院医療と地域連携の実践報告」
- ・第22回全国医療法人経営セミナー
(鹿児島 城山観光ホテル 10月27日)
田島まり子、「入院医療と地域連携の実践報告」
- ・平成19年度リハビリテーション全体研修会(12月13日 マリトピア)
松本洋平、「老健リハの新たな展開」

【講義】

◎医学関係

- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義
織田正道、「保健医療福祉のしくみ」(2月14・28日)
織田正道、「成人看護一耳鼻科」
(3月1・9日、4月10・17日、5月29日、12月11日)
織田洋子、「成人看護一皮膚科」
(4月10・13日、5月1日、12月11日)
- ・佐賀県立看護学院保健学科講義
西山雅則、「地域保険と高齢者保健指導Ⅰ」(6月7日)
鐘ヶ江寿美子、「地域保険と高齢者保健指導Ⅱ」(6月11日)
- ・佐賀大学医学部医学科4年生(12月4日)
西山雅則、「介護と在宅医療・地域医療連携」

◎看護・リハビリ関係

- ・独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター附属看護学校
(4月1日～3月31日 計6時間)
久富久美子「在宅看護方法論・演習」

- ・鹿島実業高校(11月7日)
本村幹親、「リハビリテーション医療の基礎知識」

【論文・著書】

- ・織田正道:「リエゾンナースを核に一連携センターの構築」
看護部マネジメント 249: 43-52, 2007.
- ・伊山明宏、森倫人、三宅修輔、酒村智子、乗田浩明、
中島順子:「広範な後腹膜気腫、皮下気腫を伴った
直腸穿孔の1例」. 武井臨誌, 17, 56-59, 2007.
- ・澤津橋基広: スギ花粉症に対する初期療法の有用性
一病型・重症度・感受性を考慮した薬剤選択一
Medico 38(12): 40-44, 2007.
- ・澤津橋基広、鷲崎政治、柿添亜矢、織田正道: 咽後膿瘍との
鑑別を要した頸長筋筋炎症例 耳鼻と臨床 53: 14-21, 2007.
- ・福井次矢監訳、鐘ヶ江寿美子他: 臨床疫学2版 EBN実践の
ための必須知識. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007.
- ・西村美枝子: 「院内情報システム」「患者支援システム」構築による
病院マネジメントの実践. 看護管理, 17(5), 438-446, 2007.
- ・久富久美子、田島まり子、江口富士子、江口利信:
ナーシング・トゥデイ 11月号 病院から始める退院
支援. 日本看護協会出版会.

平成一九年年間業務改善賞発表

業務改善委員 岩石 怜子

今回もたくさんの方の改善提案をして頂き、改善委員一同大変選考に迷いました。部門は「患者サービス部門」「医療安全部門」「コスト・効率部門」の三つに分かれており、織田病院とゆうあいビレッジで計十二グループが受賞となりました。

その中より、病棟での配茶の工夫を行い見事患者サービス部門受賞となった病棟クラーク代表の「一ノ瀬さん」にインタビューしてみました。

(岩石) 受賞おめでとうございます。

(一ノ瀬) ありがとうございます。

(岩石) 今回この改善を思いついたきっかけは何ですか？

(一ノ瀬) 以前は配膳時ではなく、食事の約四十分前に配茶を行っており、患者様に「ぬるい」と指摘を受けたり「食事と一緒にだしてほしい」と言われたことがあったんです。

(岩石) 具体的にどんなことをされたんですか？

(一ノ瀬) 効果はどうでしたか？

(岩石) 今後は、食事と一緒に配膳車の保温スペースに湯のみを入事するようにしているため配茶にかかる時間も短縮でき、患者様からも「お茶がおいしい」「温度が丁度いい」と喜ばれるようになりまし。今後は患者様が快適な入院生活を送っていただけるように、よりいっそう患者サービスの向上に努めていきたいと思います。

(岩石) 改善を期待しています。

今後もし小さなことでもコツコツと改善していけば病院全体の向上につながると思います。みなさん、よりよい職場環境づくりを目指して今年も頑張りましょう。

◎患者サービス部門
「配茶の工夫を行って」
病棟クラーク 小田恵子・山崎久枝・一ノ瀬明子

「外来化学療法料の料金表の作成」 医事課 中村知弘
「気持ちよく入浴するために」 看護部 江口 温子

◎医療安全部門
「MR室での事故防止・入室時チェックシート」
放射線科 坂田善和
「他科受診カルテの確実化(オレンジカード)」
医事課 坂本祐香里
看護部 吉村 早苗

「点滴ルートと固定法の統一」
「コスト部門」
「ガスも止めれば」となる」総務課 下村嘉憲・洲上敏文
「オートクレーブ稼働時間の見直し」
中央手術室部 野中文子

第十二回ゆうあい研究発表会

ゆうあい研究発表会実行委員

一ノ瀬英治

今回で十二回目を迎える、ゆうあい研究発表会が昨年の十二月一日(土)に開催されました。演題一三年(うち志田病院様より二題)と多くの演題をいただき、年を重ねる毎に充実した研究発表会になっていきます。

第I群はリハビリテーション(以下、リハと略す)に関する演題、第II群は病棟に関する演題、第III群は患者サービスやリスク管理に関する演題や言語聴覚士からの口腔ケアの重要性、コメ(機能的自立度評価表)を活用した在宅復帰への援助、老人保健施設と在宅生活での機能維持についてなど、昨今在宅復帰や在宅生活での機能維持をどのように図っていくのが問題となっている高齢者へのリハの課題を浮き彫りにしたテーマが多く見られました。第II群では、外来の化学療法における患者様の意見や家族アンケートより清潔ケアの自己評価など患者様からの意見を取り入れた看護を行っている事が伺えました。また、問題討議型のケアカンファレンスやチームアプローチを重視した取り組みなどスタッフ間でのカンファレンスやチームアプローチの重要性を再確認させられた発表もありました。今回は看護助手(以下、クラークと略す)からの演題もあり、メッセージー便変更による業務改善についての発表は、常に業務を見直しながら日々の業務改善を行うことの大切さを痛感しました。第III群では、新人看護師のストレス調査や抗がん剤のリスク軽減、今話題のメタボリックシンドロームと興味深い演題が発表されました。特に医事課の待ち時間解消への取り組みについては、長年の課題でもありオレンジカードという斬新なアイデアを用いて時間短縮に取り組んでいたのには感心させられました。特別講演は、佐賀大学医学部神経内科の薬師寺祐介先生による脳卒中・認知症への取り組みについてでした。リハに携わる者としては大変勉強になるお話をしてお話いただき、当院においても、PA等の治療薬を使用する日が間近に迫っているのではないかと考えさせられました。

私も研究発表会の委員をさせていただき五年が経ちました。皆様に支えられての五年間だったと思います。今年もさらに内容のある会にしていきたいと思っております。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

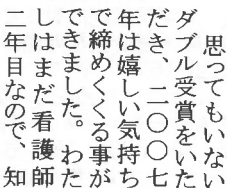
みんなの投票で選びました

当院では、毎年の忘年会で入院患者さんが選ぶ「輝いている職員」を表彰しています。

今年度は「同僚」が選ぶ表彰を企画した。これは、三階病棟で既に行われていたものでした。たを病院・法人全体に広げたものです。三階病棟では「笑顔ナンバーワン」、「環境整備ナンバーワン」、「清潔援助ナンバーワン」をスラッシュの投票で決め、職員紹介パネルに貼り出しています。今回、各職場で「挨拶・笑顔」の素敵な職員二名と「パート職員」で「輝いてる職員」二名投票し集計を行いました。この栄えある賞に輝いたひとりは、四階病棟の岩永美沙子看護師です。彼女は入院患者さんが選んだ「輝いている職員」と同僚が選んだ「笑顔・挨拶の素敵な職員」のダブル表彰です。

受賞した岩永美沙子看護師の喜びの声と
病棟師長のコメントを紹介します。

四階病棟 看護師 岩永美沙子



識・技術面ではまだまだ未熟者です。だからという訳ではないのですが、いつも笑顔でいるように心がけています。体調をくずしてこられる患者さまにとって、優しさはクサリに勝ると思います。優しい笑顔・優しい声かけをこれからも忘れないようにしていきたいです。

それから受賞して感じたことですが、いつも笑顔でいられるのは、四階病棟のスタッフみんなが優しくて、気配り上手で、いつも楽しく

【ダブル受賞おめでとう】

四階病棟 病棟師長 井手眞由美

私た四階病棟の仲間である岩永美沙子さん、今回事者さんが選ぶ「輝いている人」と同僚表彰「笑顔・挨拶の素敵な職員」にもともに一番というところでダブル受賞となりました。これは、病院職員として恥ずかしくない身だしなみ服装は当然のこと、言動・態度もすばらしいからこそ、の受賞であると思います。患者様や同僚の痛みや喜びを感じ、何か自分に行動できる事はなにかを考えた人です。今後もこの受賞を励みに頑張ってもらいたいと思います。

岩永美沙子(笑顔・挨拶の素敵な職員)

病 歴		ゆかりビジュアル	
部署	氏 名	部署	氏 名
4階病棟	田中優美	看護部門	宇野孝子
	葉山由子		喜多紀香
4階病棟	岩永美沙子		成谷智子
外来・OP・退院	香嶋マヨカ	通病科	島津由子
	岩田由美	みどり部(ICU・ICU・ICU)	山崎玲子(看護)
	熊嶋子規	看護部(ICU・看護)	神代(看護)
コメディカル	宮崎公宏		
	吉村千秋		

同僚表彰「輝いている」ビジュアル職員

病 歴		ゆかりビジュアル	
部署	氏 名	部署	氏 名
看護部外来	土井茂子	2階看護部	山口早紀
		バイザービビ笑うあい	鍋島 豊

演劇		ゆりあいプロジェクト	
部署	氏名	部署	氏名
3年課	田中愛菜	警務課管理	三輪孝子
4年課	堀内陽子		喜多志恵
6年、OP・池袋	岩本麻沙	連絡部門	成宮智子
事務部門	明石知美	本部付（G1）運営・総務	島津満子
ユメタビ文化	梅崎由子		北川裕子事務
	安藤公弘	運営・タレント、事務	神代 慎佑花
	吉村千帆		

関係者として、以下の職員、

演劇		ゆりあいプロジェクト	
部署	氏名	部署	氏名
警務課6年	土井京子	2階警務課	山崎リサ
		グループワークゆりあい	堀田 智

ゆうあいビレッジ1階療養棟
古賀清隆

新年あけましておめで
とうございます。
旧年中は、ゆうあい
ビレッジ・スタッフ始め
病院スタッフにも多大な
ご支援とご指導を頂
き有難うございました。
本年もまたよろしくお
願いたします。
さて、今回は一階療
養棟の紹介に当たり、
一階療養棟の概要を
少し説明させて頂きま
す。
ケアコートゆうあいも
開設十一年目を迎えま

一階療養棟の位置付けは、主に認知症の症状をお持ちでない利用者様を対象としています。最近では利用者様の介護度の上昇もあり（一月七日現在、平均介護度三・八二）、認知症を併発された利用者様が増えてきています。近年ユニットケアと言う新しい介護方法が流行りつつありますが、このユニットケアとは従来のスタッフ業務を中心とした効率性優先の集団ケアと異なり、利用者様を中心としたより個別性のケアのことです。一階療養棟では、四名の利用者様をそれぞれ「すずらん・ひまわり・いちご」と三つのグループに分けてケアを行っていますが、以前よりも利用者様となじみの深い関係を持つ事ができ、より利用者様のためのケアが展開出来ているのではと思っています。しかし、一部集団ケアを行っている面もあること、スタッフ個人により専門性の高い介護が求められることもあり、今後も更に知識・技術の向上を図って行きたいと思っています。

また一年前より、数名ではありますが夕食後の入浴（夜間入浴）を取り入れています。夕食後のくつろいだ時間に入浴をされることで、就寝も以前よりスムーズになるなど大変好評を得ています。レクレーションも運動会、クリスマス会、花見会など多彩に催しており、また昨年四月に赴任した音楽療法士を中心として毎週一回の音楽療法法の導入を行うなど、レクの展開を図っております。

老健施設はイメージ的に慢性的な医療・介護を行う場として思い浮かべられるかと思いますが、療養棟は利用者様の「生活の場」であり、療養棟スタッフも常にその事を意識・認識して、利用者様の自立と援助に努めて行きたいと思っています。

・ 児玉聡、赤林朗訳（トニー・ホープ著）

・足立洋祐著 臨床医のヒント 〇〇冊

・栗原毅著 体重2キロ減で脱出できる

講談社 + α 新書、二〇〇六

紀伊國屋書店 二〇〇六

新潮新書 二〇〇五

・ 杉山孝博著

・岡上多寿子著

木耳社 二〇〇六

木星舍 二〇〇五

新着図書

編集後記

皆様、あけましておめでとうございました。す。いよいよ新しい一年が始まりました。

二〇〇八年は冒頭の理事長のお話にあるように、特定検診がスタート、また「社会医療法人」への移行予定等もあり、さらに地域に密着した病院として機能を高める必要があります。保健・医療・福祉の三分野それぞれが連携し、地域の方々が満足できるサービスを提供できるようスタッフ一丸となつて頑張つていきますよう。

また、二月は病院機能評価の訪問調査があります。県内での最初の認定機関でもあり、誇りと自信を持つて臨みましょう。

まだまだ寒い日が続いていますが、風邪などひかないよう体調管理に気をつけてください。

(山田のぞみ)